



不仲な夫婦が、もう一度、一緒に暮らすまで

[あとで読む](#)

【尊厳ある介護（61）】幸せは「自分だけの気ままな暮らし」の中にあるか？

公開日：2018/11/06 (ソサエティ)

里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉
ベタニアホーム統括施設長）

「食事を食べていないのですが」と大里朋子さん（仮名84歳）は事務所に来られました。つい先ほども同じ訴えをされたばかりです。



CC BY /libertygrace0(cropped)

困った相談員は「食堂で食事をしていただくをお見かけしましたが」と伝えると、腑に落ちない様子でお部屋に戻られました。

大里さんは夫婦で在宅生活をしていました。夫は無口な人で、妻は家にいて夫に従うのは当然といった昔ながらの考えの持ち主でした。

一方、妻の大里さんといえば知的好奇心が旺盛で、積極的に講演会などに出かけるような当時にしては珍しい女性でした。料理も得意でプロ並みの腕前でした。

そんな正反対のお二人でしたからよく口論になり、時には夫が手を出すこともあったそうです。

そして、とうとう大里さんは長年の夫婦生活に我慢できなくなり、残された時間を後悔しないよう、一人で施設に入所する決断をしたのです。

近くに住んでいるご家族も両親の不仲を知っていたので、やむを得ず母親が入所することを認めました。

文字サイズ：



中



入所してからの大里さんは食事の用意などの家事から解放され、空いた時間をコンサートや趣味の会と自由気ままな生活を満喫していました。

ところが、入所して1年過ぎた頃からでしょうか。食事を食べていないと再々言われるようになったのです。相談員は大里さんの記憶に食事の楽しさが残るよう、自分も一緒に施設の食堂で食べるようにしました。

その時は嬉しそうにされるのですが直ぐに忘れ、時には「何日も食べさせてもらっていない」と、激怒して言われるようになったのです。

それだけでなく、あれだけおしゃれだったのに身だしなみも構わなくなったのです。

また、ご家族にも特に用もないのに再々電話をかけるようになりました。

それで、大里さんの変化に気付いたご家族は心配して、再々施設に尋ねて来るようになりました。

そうこうするうちに、今度は夫が体調を崩して入院されました。ご家族は母親の施設だけでなく、父親の病院も見舞わなくてはならなくなったのです。

やっと治療が終わり夫は退院して自宅に戻ることにになりました。しかし、歩行が不自由になったので、一人での生活させるわけにはいかないと、ご家族は思案に暮れていました。

すると、それを知った大里さんが「自宅に戻る」と言い始めたのです。

ご家族は今の二人の状況とこれまでの関係を考えると、夫婦で暮らすことに賛成しかねていました。

しかし、母親の帰宅希望に負けて、施設を退去して家に連れて帰ったのです。

案の定、二人は2、3日も経つと口喧嘩が始まりましたが、以前のようにありませんでした。

夫は判断力がありますが身体は不自由になり、大里さんは身体的には問題ありませんが認知症になりました。

だから、夫が指示をして妻が行うというように、お互いを補完し合いながら暮らし始めたのです。

二人の背後には手厚いご家族やヘルパーの支援がありました。

私は以前大里さんから「夫と長年暮らした家を出た」と聞かされた時、イプセンの戯曲「人形の家」の主人公ノラと重なりました。

ノラは夫が自分を一人の人間として対等に見ていないことに気付き、夫の元を去ったのです。

ノラと同じように家を出た大里さんは、誰かのために得意な手料理を振る舞うことはしなくなりました。自由は手に入れたのですが、役割を喪失したのです。

高齢になり役割を失いストレスが全くなくなると認知症を発症する場合があります。反対にストレスが強すぎると認知症の症状は悪化します。その人にとってちょうど良い緊張感が必要なのかもしれません。

夫の元に戻った大里さんが幸せであったかどうか私は知る由もありませんが、彼女から教えられたことがあります。

どうやら、人は自分のために生きるだけでは、幸せを感じ難いということです。

(注) 事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。

続報リクエスト

マイリストに追加

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子のバックナンバー](#)
- > [米中間選挙、トランプ熱気が意外に冷めず](#)
- > [消費増税より、原油高が心配](#)

> [ロシア経済、しぶとく好調 米欧制裁でも](#)

> [韓国発「旭日旗は戦犯旗」は大ウソだ](#)

プロフィール

最近の投稿



里村 佳子(社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長)

法政大学大学院イノベーションマネジメント（MBA）卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設の担当理事。2017年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設。

いいね! 0

シェア 0

ツイート

G+

LINEで送る

[この記事編集](#)

ソクラとは

FAQ

編集長プロフィール

利用規約

利用案内

プライバシーポリシー

著作権について

特定商取引法に基づく表示

メーカーソクラ

お問い合わせ

お知らせ一覧

コラムニストプロフィール

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved